

会津若松税務署長賞

高校からの違いから

福島県立若松商業高等学校

一年二組 菊地 茜里

税金という言葉聞いた時、学生達ほどのようなイメージを持つだろうか。良いイメージを持つ人もいるだろうが大半は悪いイメージを持っていることだろう。私達学生も唯一支払っている税—消費税は、商品を買う度代金に乗せられ、余計にお金を支払わなければならぬことから、悪いイメージにつながっているのではないかと考える。実際、私もそうだった。

中学生の時、授業で、税金は人のため社会のために使われているというような話を聞いたが、そうなんだと思うくらいであまり関心を持つこともできなかった。

しかしこの春、私の考えが変化する出来事があった。

今年の春、私は無事に合格し、中学生から高校生への階段を上ることができた。その合格発表の時に渡された多

くの資料。私は嬉しくてしようがなく、家に帰ってすぐその資料を出して、一つずつ眺めていた。すると、一枚の紙に目が止まった。それは、教科書類の金額と買方について書かれていた。私は金額を見るのに驚いた。えっ、教科書類だけこんなにかかるのか。

母に言うと、「高校生からは義務教育ではなくなるからね。また、しっかり勉強しなさいね。」

と言われ、私はハッとした。小・中学生の時は国から無償で支給されていたため、お金を支払う必要がなかった。もし、支給されていなかったら、どれくらいお金がかかっていたのだろう。きっと大きな負担になっていたに違いない。

私は急に感謝の気持ちでいっぱいになった。

小学生の後半にもなれば、国からもらっていて、お金は支払わなくて良いという風に少しは理解できていたか

ら、感謝の気持ちは一応にはあったが、これより大きいものではなかった。そして、私は今になって、税に支えられていたということを実感した。

税金は、人のため、社会のために。私は、自分が税を支払うことで、人のため、社会のためになるのなら、それはとても嬉しいことだと感じる。

私達学生は、もっと税金について知るべきだと考える。身近にあつて気づけなかったことに気づくことができるかもしれない。

そして、自分たちが今こうして生活を送れていることに、多くの人に感謝の気持ちを忘れないことが大切なのだ。

